大分合同新聞 2024年5月15日(水) 朝刊 12面

コロナ後も要請高止まり

救急車出動8千件超

23年 別府市が1隊新設へ

【別府】別府市内で救急車の出動件数が2023年に初めて8千件を超え、過去最多を2年連続で更新した。市消防本部は新型コロナウイルス禍で需要が伸び、感染のピーク後も要請の心理的ハードルが下がったまま高止まりしたと分析している。利用の多い高齢者の人口は60年まで3万人台が続くとの推計がある。現状の4隊編成では負担が続くとみて、救急車1台を購入して1隊を新設する。

別府市内で運用する救急車＝市消防本部

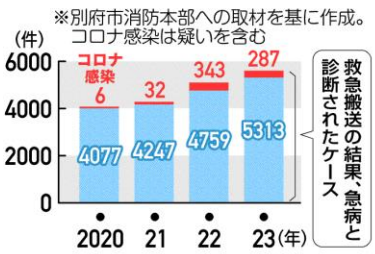
市消防本部によると、23年（1～12月）の救急出動件数は8357件（22年比643件増）。近年は21年まで6千件台で推移し、22年に7千件台に突入していた。

別府市内における救急車の出動件数

搬送の結果、急病と診断されたケースと、その中に占めるコロナ感染（疑い含む）の内訳は▽20年　4083件（6件）▽21年　4279件（32件）▽22年　5102件（343件）▽23年　5600件（287件）―。コロナ関連が22年をピークに減った一方、それ以外の急病が増えた。

市消防本部の後藤英明警防課長は「コロナを乗り切れば要請も落ち着くかと考えていたが、23年になって減らないどころか増えた」と振り返る。「生死に関わる感染流行を体験し、要請一般への抵抗感が下がったのだろう」と指摘する。

2022年のコロナ感染のピーク後、それ以外の急病による救急搬送が増えている



現在、市内の救急車は本署、浜町、亀川、朝日の各出張所に計4台配備。それぞれを救急隊1隊（4人一組の2チーム）が担当し、当直体制で運用している。要請に追いつかない場合は、本署の職員が予備車両1台を使って対応している。

出動件数の増加で業務量が多くなっており、市消防本部は判断能力の低下などを懸念。増隊による対策を決めた。

隊員確保などの準備後、5隊体制が動き出すのは25年10月の予定。新設の1隊は本署に置く。

後藤課長は「増隊で生まれる時間は、今は難しい職員研修に充て市民にフィードバックしたい。市民には救急車の適正利用を呼びかけたい」と話している。（中谷悠人）

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。

大分合同新聞
ワークシート

年　　組　　氏名

大分合同新聞 2024年5月15日(水) 朝刊 12面

〔問①〕別府市内での救急車の出動件数が2023年に過去最多となりました。何件ですか。

8357件

〔問②〕新型コロナウイルス感染のピーク後も件数は増えました。なぜと考えられますか。

（新型コロナウイルス感染流行を経て）出動要請の抵抗感が下がったから

〔問③〕救急車の適正利用について考えよう。どうすべきと思いますか。

自由記述

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。